

# グループワーク

今後の講座に向けて（演習）

日時：平成27年7月25日（土） 10:00～12:00

講師：高野雅夫、田中隆文（あいち海上の森大学コーディネーター）

## 概況



講座名：「グループワーク 今後の講座に向けて（演習）」

講師：あいち海上の森大学コーディネーター 高野 雅夫先生、田中 隆文先生

「森林・里山保全の指導者、技術者になるには」をテーマに、グループワークが行われました。

まず始めに、あいち海上の森大学コーディネーターの田中隆文先生より、グループワークの際のアドバイスとともに、話題提供として、花崗岩の風化を例に風化の仕方や条件、小原・藤岡での風化した花崗岩の土砂崩れ災害などが紹介され、風化や土砂崩れの条件は場所や地質によって異なることなどが説明されました。

その後、受講生は4班に分かれ、それぞれの班が

- ①（具体的に）なにができる人が森林、里山保全の指導者、技術者なのか
  - ②どうすれば、それができるようになるのか。
  - ③森林・里山保全をするために必要な6人を選ぶ
- についてグループワークを行いました。

グループワーク後、各班が発表を行いました。

1班は、林業に関する知識・技術をもてる人、農業ができる人、植物に詳しい人、地元意識のある人、まとめられる人、人材育成ができる人が指導者・技術者であり、森

林組合・県の研修、地元農家の協力、観察会などにより育成することが必要である、と発表されました。

2班は、木を知っている人、森を知っている人、人をひっぱれる人、知識のある人、認識に係る人、森の管理ができる人が指導者・技術者であり、歴史、自然とのふれあい、木の種類・用途、維持管理、生物多様性などについて学ぶ必要がある、と発表されました。

3班は、人工林の維持管理・経営、自然林の維持管理・経営などを含め、50年・100年・500年後に「どういう林にするか」というビジョンを持った人が指導者・技術者であり、若い人がやっけていき生計が成り立つように、行政、大学、周りの人の協力必要である、と発表されました。

4班は、山の手入れができる人、植物を守れる人、動物を守れる人、山や畑の産物を加工・販売など上手に使える人、次につなげられる人が指導者・技術者であり、それぞれの人材育成が必要である、と発表されました。

発表後に、田中先生・高野先生により全体の発表を通しての総括がなされました。